

①-1 組織【組織体制や会議運営のアイデア】

事例1

定例的に役員会を開いています

うちの自治会では、「毎月25日は役員会」と決め、組長を含めた役員全員で、定例的に集まります。

「頻繁に集まるのはみんな大変だし、第一、何を話すの?」と言われるのですが、まずは、顔を合わせる機会を作ること。

議題は町内の行事のことだけでなく、校区（自治協議会）の活動や動きなどいくらでもありますし、役員同士の会話の中から、新しいアイデアや課題が見つかることもあります。「三人寄れば文殊の知恵」って言いますよね。

それに何より、いつも顔を合わせていると自然と互いに親しみが増し、気軽なお付き合いができますからね。いざ町内の行事を行う際も、人間関係が醸成されていれば一体感や達成感、責任感が違いますよ。



ポイント

- ・会長一人で判断しない。
- ・顔を合わせ、話し合う機会を増やす。

事例2

規約を大幅に見直しました

自治会を運営する上で大切なことは「透明性の確保」と「誰が見ても納得できる組織づくり」。その視点から、私たちの自治会では規約を大幅に見直しました。

改正のポイントは、「住民にきちんと説明する」と「役員の職務を明記する」こと。自治会の組織や各役員の役割、住民からいただく会費の用途などを分かりやすく定めておくことは、組織づくりの根本だと考えています。

改正にあたっては、さまざまな角度から検討できるように、自治会の元委員なども含めて案を作りました。

案が完成したら見直し前後の対比表を作成し、改正のポイントをまとめた資料とともに住民の皆さんにお知らせしました。



事例3

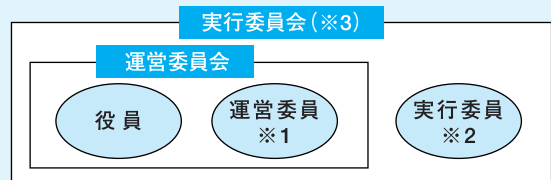
実行部隊をつくりました

何もかも役員だけでやろうとすると、負担がかたよった自治会になってしまいます。そこで私たちは、役員会が担っていた職務の一部（事業の企画・立案、運営・執行）を分担してもらうために、運営委員会を置くことにしました。

また、運営委員会のもとに実行委員会を設けることで、校区の運動会や町内の行事、自治会が発行する広報紙の編集など、それぞれの分野に詳しい人たちが集まって、効果的に事業を実施しています。

②どんなメンバーですか

- 次のメンバーで構成されます。



※1 自治会長が委嘱した住民

※2 組長会や分野別に作られた各種の団体（または委員）の中から選ばれた住民

※3 「運動会実行委員会は、体育関係者を中心に」などの工夫を実施

②どんな効果がありましたか

- 役員の負担が軽減されました。
- さまざまな人が委員に入ることによって、活動やアイデアの幅が広がりました。
- メンバーの中で「この人は!」という人材が発掘でき、他の活動にも誘えます。



● 事例4 ●

町内の団体と連携しています

子どもと高齢者は地域活動のキーワードです。うちの自治会では、子ども会や老人クラブなどの各団体とも連携しながら活動しています。

②具体的には、どんな連携をしていますか

- 子ども会や老人クラブも一緒に、登下校の見守りや資源物回収、清掃活動を行っています。
- 総会では、それぞれの団体の活動も詳細に報告しています。

②どんな効果がありましたか

- 住民同士が顔なじみになって、連帯感が高まりました。
- 活動の担い手不足なども一緒に考えることができ、単独でやるよりも効率的、効果的に活動できます。
- 子ども会と連携することで、保護者の間で「子どもを町内で見てもらっている」という意識が生まれました。



● 事例5 ●

管理組合と連携しています

集合住宅だけで単位自治会を構成している私たちのところでは、管理組合とも連携しながら活動しています。目的を異にする別組織ではありますが、どちらも同じ場所で生活する住民同士。情報交換を行いながら、住宅内の問題に取り組んでいます。

また、管理人さんが自治会の仕事を手伝ってくれたり、何かあると連絡をくれるなど助かる部分もありますね。

● 事例6 ●

会議もスムーズになりました

役員会や定例会の時間が長くなると、皆さん疲れますし、出席率も悪くなっていきますよね。

会議を円滑に進めるために、各自治会で、さまざま工夫をされているようです。

●事前の打ち合わせを綿密に

三役会議など、事前の打ち合わせを綿密に行い、役員会や定例会の議題や報告事項をまとめています。

●話の内容は紙にまとめて

議題や報告事項は、紙にまとめて配布します。見ただけで分かる資料があれば、会議時間もかかりません。

●資料は事前に配布を

短時間で密度の濃い会議が出来るように、資料は5日前には配ります。出席者が事前に目を通していけば当日の進行が違います。

●みんなが知りたい情報を

住民が欲しい情報（ごみ出し日など）は、あらかじめ市に問い合わせ、会議の中で報告するようにしています。

●課題は事前に投げかける

町内の課題を考えるときは、「次の会議までに考えてきて」と投げかけています。突然発言を求められても、なかなか意見は出しづらいですからね。

●町内の施設を有効活用

「集会所がない」「公民館まで距離がある」。そんなうちの自治会では、町内にある民間の福祉施設にお願いし、部屋を有料で借りています。

①-1 組織【隣組でのアイデア】

・事例1・

組長会議を開いています

月1回、定例で開催しています。自治会長は校区自治協議会の定例会に出席しますので、その時説明があった校区の動きなどを組長に報告したり、市からのお知らせや広報物の配布などを行っています。

組長は直接住民と接する機会が多いので、地域の情報などをきちんとかまめにお知らせすることが大切です。全員で同じ情報を共有するようにしています。



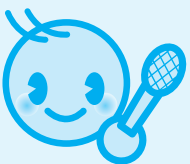
ポイント

- ・組長会議の前には役員が集まって、当日の資料の内容を十分に検討する。
- ・資料はそのまま住民に回覧してもらうので、分かりやすい表現で詳しく説明したものを作る。



・事例2・

組長の役割はとても重要です



組長はいろいろとご苦労も多いうえ、その役割はとても重要ですので、本人の高い意識と住民の理解が必要です。

②組長の意識を高めるために、 どのような工夫をしていますか

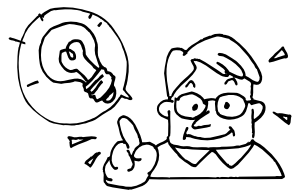
- 組長の役割や位置づけなどを規約で明確にしています。住民に広く理解してもらうとともに、本人にも責任と自覚を持って取り組んでもらっています。
- 初めての組長には、自治会の組織のことや組長の職務をきちんと文書にして、説明をしています。
- 組長手当を増額しました。責任を持ってそれだけのことをしてもらうという意識づけになりました。

②組長同士の連携を強めるために、 どのような取り組みをしていますか

- 役員と組長、また組長同士の意思疎通はとても大切です。うちの自治会では会議だけでなく、町内のイベントや行事などにも積極的に出てきてもらうようにしています。
- 年に1回、懇親会を開いています。色々な話をしていく中で打ち解けて、最後は皆さんニコニコですよ。

②組長の意識が変わることで、 どのような効果がありますか

- 仕事を明確にすることで、組長にも責任感が生まれます。さまざまな自治会活動があるのですが、関心を持って協力してくれるようになりました。
- 任期が終わった後でも、町内や校区の行事に自主的に参加する人が増えました。



● 事例3 ●

組長選出も工夫しています

- うちの自治会では、組長のほか副組長も選出します。次年度は副組長が組長になる仕組みですが、大きなイベントには2人で出席してもらうので、引き継ぎなどがスムーズです。
- 集合住宅では新しく入居した人に組長をお願いすることもあります。「みんなと仲良くなれますから」と言っていますが、実際そのようですよ。
- 自分にはできないと言う人もいますが、「これだけでいいですから」「来てもらうだけでもいいですから」と言って、何とか出てきてもらいます。参加しているとだんだんと楽しくなってくるものですから、まずは来てもらう工夫が大切です。

**ポイント**

- ・みんなで助け合える体制をつくる。
- ・楽しさを分かってもらえる工夫が必要。



● 事例4 ●

引き継ぎも大切です

- うちの自治会では、年度初めの総会には新旧の組長に出席してもらっています。規約や事業計画書、予算・決算書などを配布して、その場で組長の引き継ぎをしてもらっています。
- 「組長の手引き」を作りました。規約や会費のこと、役員名簿、予算・決算、事業計画、会計監査の文書など色々な情報を入れていきます。一度作っておくと、後々楽ですよ。

● 事例5 ●

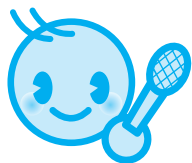
こんな工夫もありますよ**● 組の分けを変えました**

もとは町界町名の区画型で組を分けていたため、地図の上では近所でも、歩いていくと大回りをしなくてはいけないところもありました。そこで、組の分け方を通りに沿った「向こう三軒両隣型」に変えたところ、いつも顔を合わせているご近所同士が同じ組になり繋がりも深まったようで、体育祭の時など団結していますよ。顔見知りだと、いろいろ協力もしてもらえますしね。

● 地域担当の役員を置きました

うちの町内は区域が大きいので、組長とは別に地域ごとの担当役員を置いています。自治会と組をつなぐ連絡係や、組長の相談相手のようなもので、組長に配布物を渡したり、防犯灯の管理なども一緒にやっています。転入者への加入のお願いにも協力して訪問しますし、カーブミラーが欲しいとかの地域の要望があったときは、組長と一緒に現地調査をして、自治会の要望としてあげていきます。

①-2 役員【人材を探すためのアイデア】



自治会の円滑な運営には、役員の尽力が不可欠です。

しかし、なかなか人材が見つからず、役員の選出に苦労されている自治会も多いのではないのでしょうか。

ここでは、役員の選出にさまざまな工夫をされている会長さんたちのお話をご紹介します。

事例1

自治会長を広く募る

自治会長の改選期には、掲示板に「立候補者募集チラシ」（下記参照）を掲示し、住民から広く候補者を募っています。

平成〇〇年〇月〇〇日

〇〇〇〇自治会
会員各位

〇〇〇〇自治会
会長 〇〇 〇〇

自治会会長の選出について
(任期満了による公募)

平成〇〇年〇月をもちまして、自治会規約第〇条により自治会会長が任期満了になります。
つきましては、自治会規約第〇条〇項により、会員各位から会長を募ります。

◎ 自薦・他薦にかかわらず、応募してください。
◎ 会長立候補者名を〇月〇〇日(〇)午後5時までに自治会ポストに投函してください。

以上

事例2

役員候補者を隣組から推薦

2組につき1名を役員に推薦します。推薦された候補者は、「役員選考委員会」（組長全員で構成）を経て、総会で承認を受けます。

事例3

組長が部会長に

各分野の活動は、体育部、衛生部などの部で行っており、組長はいずれかの部に必ず所属します。

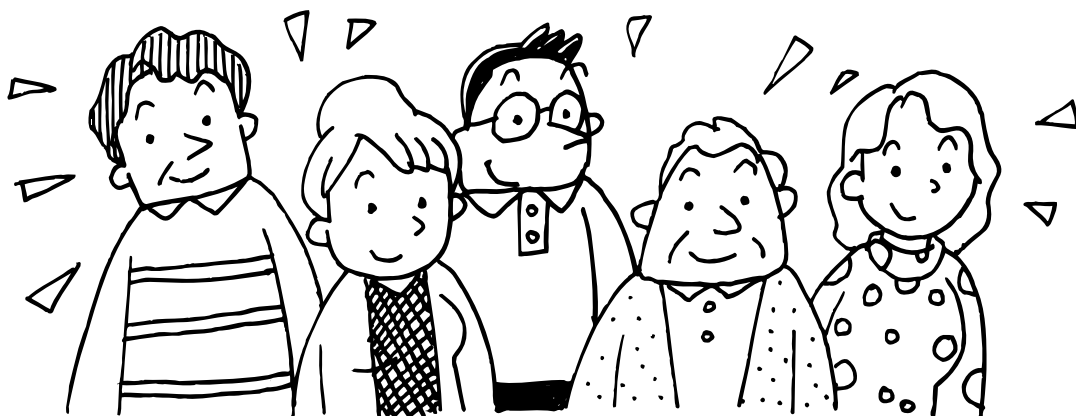
誰をどの部に配属するかは、事前に提出された希望調査票を基に会長が割り振ります。

②人の配置を決めるのは大変ですね

- 本人の希望どおりにいかない部分もありますが、最終的には、部会内の年齢構成やバランスなどを考えて、お願いしています。

②各部の部長はどうやって決めますか

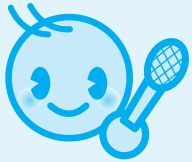
- 部内の話し合いではなかなか決まらないので、適任だと思う人に自治会長が直接お願いをします。組長以外の人に依頼することもあります。日ごろからどう発掘するか意識が大切だと思っています。





● 事例4 ●

後継者を探すために気をつけています



「後進に道を譲りたいのだが、後任が見つからなくて」と、お困りの会長さんも多いのではないのでしょうか。

特に自治会長の後継者探しは自治会における悩みの種。解決に向けて、各自治会ではさまざまな工夫をされているようです。

● アピールするなら楽しい面を

- 役員が「大変だ」と言い過ぎないように心がけています。楽しい面もありますからね。
- 広報紙に役員の活動報告を載せています。本人の言葉で感想を綴ることで、読んだ人にも楽しさが伝わるようです。

● 可能なかぎり負担を分散

- 同じ人がたくさんの役割（役職）を持たないように気をつけています。役が多いと負担感が募り、次の担い手不足につながりますからね。

● 普段から目を光らせる

- 組長経験者の中から「この人は」という人に声をかけて、他の役職に就いてもらいます。
- 町内の催しなどで普段からよく動いてくれる人を見つけておき、声をかけます。

● 周囲の人に危機感を

- ずっと自分が会長をできるわけではないし、またそうあってもいけないと思うので、周りが危機感を持って後任を考えるように、「次はもうやらないよ」と宣言しています。

● 事例5 ●

専用様式を配布し、早めに後任探しを依頼します

うちの自治会では、各組から組長と体育委員を選出します。分野別の活動を行う団体の代表者も役員になりますが、いずれの場合も現役員が後任者を見つけます。

早めに動き始めてもらえるように、11月の定例会で専用の様式(右参照)を配布し、2月の定例会までに、「次年度の代表者の氏名」と、団体の場合は「今年度の活動報告」の提出をお願いします。

各団体の活動報告欄は、総会資料を作成する際にも活用できるのでとても便利です。

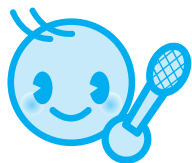
平成22年11月作成
〇〇〇〇町内会 (F-23)

(平成23年度) 新役員名及び(22年度) 活動報告

平成22年度 組名(又は)部会	平成22年度 組長名・部会長名	住 所	電 話 番 号
平成23年度 組長 及び 体育委員			
組長名		〇〇〇丁目 番 号	番 号
組長名		〇〇〇丁目 番 号	番 号
体育委員名		〇〇〇丁目 番 号	番 号
平成23年度 各 部 会 長 名			
部会長名		〇〇〇丁目 番 号	番 号
部会長名		〇〇〇丁目 番 号	番 号
各 部 会 による平成22年度活動報告			
平成23年度 新しい活動予定(又は)目標			
*何か希望があれば記入して下さい。			

*平成23年2月の定例会までに必ず提出して下さい。

①-2 役員【選出やその他のアイデア】



役員は、自治会運営の要です。住民の皆さんからの自治会費で会は運営されますので、信頼される役員でなければいけませんし、自治会のこともよく理解していただく必要があります。

そして何より、役員同士のスムーズな連携が自治会活動の鍵になります。各自治会におけるさまざまな工夫をご紹介します。

・事例1・

選考は民主的に

選考委員会を作って、役員を選出しています。選考過程は、作業・調整経過報告書を作り、開示できるようにしています。

また、総会の中でも選考経過を報告します。



ポイント

- ・住民にきちんと説明できるように、公正で民主的な役員を選出を行う。



・事例3・

役員同士の連携を図ります

(住民配布用の役員名簿のほかに) 電話番号が入った役員連絡用の名簿を作っています。

また、役員同士の新年会や懇親会を開いています。親睦も深まり、連携を強めるためには絶対必要ですね。そんな場では色々な町内の話題が出て、懸案事項が要望としてまとまったり、たまには議論になることもありますよ。



ポイント

- ・自治会を円滑に運営するためには、役員同士の連携が大切。



・事例2・

引き継ぎは大切です

活動の実績などは、役職ごとにファイルを作って整理し、引き継ぎの時に渡すようにしています。

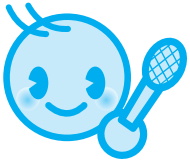
また、過去の資料もすぐわかるように、きちんと整理して保管しています。



ポイント

- ・人が変わっても自治会の運営に継続性が持てるように、引き継ぎはしっかり行う。





会長さんたちの心得をお聞きしました!

会長は大変と言われるけど、それは「こうしなければならぬ」という過剰な義務感があるからだと思います。

きちんとするにこしたことはないけれど、失敗してもいいじゃないですか。

結果は気にしないで、まずは、やってみることだと思います。

会費の徴収などいやなことは会長がやるべきだと思っています。そうすると、会の中でも信頼してもらえます。

また何か不都合があっても、それは会長のせいだということにしてもらいます。悪者探しは後味が悪いですからね。

会長が一人であまりなんでもやるのはどうかなあと思います。

後継者を育てるためにも、会長は針路だけを示して、後は役員に任せるべきです。

会長の力の源は、住民や役員の笑顔です。「あなたが会長でよかった」と言われると、たまらなく嬉しいです。

とにかく何でも考えること。一生懸命考えると、なにがしかの解決策は出てくるものです。

また、会長の独断はご法度です。考えたことを役員としっかり話し合うことが大切です。

うまく周りの人を使うことが大切です。

指示することに抵抗があると思いますが、上手に「お願い」するといいですよ。

いろいろな人が経験できるように、会長の任期は決めておくべきです。ただ、人が代わっても、自治会が何のために誰のために存在するのかという自治会のコンセプト(理念)は、しっかり持ってぶれないようにしましょう。

会長が頑張る姿を見せていけば、みんなついてくると思いますよ。